

## 第2章．まちづくりの目標

---

### 2-1. まちづくりの目標

---

まちづくりの目標は、平成15年に策定した磯子区まちづくり方針の想いを受け継ぎます。

#### まちづくりの目標

## 『水と緑に抱かれた 人にやさしい快適なまち』

この目標は、磯子区の地理的特徴である海や川の“水”と、円海山などの“緑”の継承に加え、誰もが安心して暮らすことができるまちづくりの方向性を示しています。

今後は、人口減少や高齢化が進む中、この目標を実現するため、都市基盤施設の維持や人口減少社会の対応、都市環境の改善を図ります。また、災害対策等の課題に対応していきます。

---

## 2-2. 磯子区の都市構造

---

まちづくりの目標として、将来の都市構造を次のように計画します。現在のまちや構造を基本としながら、誰もが便利で快適に暮らすことができるようにします。

### ①土地利用

まちの構成に応じて土地利用を行います。

#### 臨海部

京浜工業地帯の一翼として産業の維持・向上を図ります。

#### 平地部

住宅地と商業、業務、工業等の複合的な都市機能の調和を図ります。

#### 丘陵部

主となる住宅地の住環境の保全・向上を図ります。

#### 円海山周辺

豊かな緑地・農地を主としながら、自然的環境を保全します。

### ②生活拠点

駅周辺の生活拠点では、身近な場所で日常生活を豊かに送れるよう、仕事や買い物だけでなく、地域の特性やニーズに応じて、人々が集い楽しめるにぎわいを創出できるまちづくりを進めます。

### ③交通網

道路交通網は、おおむね整備が完了した幹線道路ネットワーク交通を主軸とし、主要な地域道路での歩行者の安全確保、バス便の減少への対応を検討します。鉄道交通網は、既存の鉄道に加え、元町・中華街駅から根岸駅を経て上大岡駅を結ぶ横浜環状鉄道について検討します。

### ④水と緑の環境

水と緑の環境は、円海山や新杉田臨海部の「拠点」と堀割川や大岡川などの「軸」により骨格をつくります。また、市街地内や風致地区等の「まちなかの緑のまとまり」により、自然の魅力を創出し、都市の中で自然を感じることができる生活環境を創り出します。

## 磯子区の将来都市構造図

